

「高等部指導すべき 内容グループ」

教科学習への転換（R2年度より）



高等部の指導内容について検討をすすめる！

新学習指導要領の改訂ポイントのおさらい

社会に開かれた教育課程
卒業後の自立と社会参加に向けた充実
生涯学習の視点

カリキュラムマネジメント
肢体不自由校においては体験的な活動

生涯学習の視点

特別支援学校 高等部学習指導要領 総則

特別支援学校高等部学習指導要領等における生涯学習に関する主な記載事項

特別支援学校高等部
学習指導要領(平成31年2月公示)

- 第1章 総則 第2節 教育課程の編成
第5款 生徒の調和的な発達への支援
1 生徒の調和的な発達を支える指導の充実

(5) 生徒が、学校教育を通じて**身に付けた知識及び技能を活用し、もてる能力を最大限伸ばすことができるよう、生涯学習への意欲を高める**とともに、社会教育その他様々な学習機会に関する**情報の提供に努める**こと。また、生涯を通じてスポーツや芸術文化活動に親しみ、豊かな生活を営むことができるよう、地域のスポーツ団体、文化芸術団体及び障害者福祉団体等と連携し、**多様なスポーツや文化芸術活動を体験することができるよう配慮**すること。

特別支援学校 高等部学習指導要領 音楽

特別支援学校高等部学習指導要領等における生涯学習に関する主な記載事項 (第2章 各教科)

第2節 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校

	教科	学習指導要領	解 説
第1款 各学科 に共通 する各 教科の 目標及 び内容	〔音楽〕	1 目標 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。 3 指導計画の作成と内容の取扱い (2) 2の各段階の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。 ウ 生徒が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるような機会をつくるなど、生徒や学校、地域の実態に応じて、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること。	(前略) 「音楽を愛好する心情」とは、生活に音楽を生かし、生涯にわたって音楽を愛好しようとする思いである。この思いは音楽のよさや美しさなどを感じ取ることによって形成される。音楽活動によって生まれる楽しさや喜びを実感したり、曲想と音楽の構造との関わりや、背景となる風土、文化や歴史などを理解したりすることを通して、音楽を愛好する心情を育てていく。(中略) 「音楽に親しんでいく態度」とは、音楽科の学習が基盤となって生涯にわたって音楽に親しみ、そのことが人間的成長の一側面となるような態度のことである。そのためには、生徒が進んで様々な音や音楽及び様々な音楽活動に親しみ、音楽活動を楽しむとともに、生涯にわたって音や音楽への興味・関心をもち続け、それを更に高めていくための素地を育てていくことが求められる。(後略) (前略) 学校内の音楽活動には、音楽の授業のみではなく、特別活動における諸活動などにおいて、歌を歌ったり楽器を演奏したり音楽を聴いたりする活動も含まれる。学校外における音楽活動には、生徒が自分たちの演奏を披露するだけでなく、音楽家や地域の人々によるコンサートなどの様々な音楽活動が含まれる。(中略) このように、生徒が音楽科の学習内容と学校内外の音楽活動とのつながりを意識できるようにするためには、例えば、授業で学んだことを音楽科の授業以外の場面で発表するなど、音楽科の授業以外の場面においても音楽に主体的に関わっていく機会を活用していくことが必要である。

特別支援学校 高等部学習指導要領 体育

特別支援学校高等部学習指導要領等における生涯学習に関する主な記載事項 (第2章 各教科)

第2節 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校

	教科	学習指導要領	解 説
第1款 各学科 に共通 する各 教科の 目標及 び内容	〔保健体育〕	1 目標 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむことや、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。	この目標は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指すとともに、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続することを目指すことを示している。(中略)「体育や保健の見方・考え方」の「体育の見方・考え方」とは、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」としている。(中略) 保健体育科においては、見方・考え方を働かせることができるようになる学習過程を工夫することにより、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力」の育成につなげようとするものである。 「課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程」とは、体育分野においては、各領域特有の特性や魅力に応じた課題や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための課題等を発見し、運動に関わる一般原則や運動に伴う事故の防止等の科学的な知識や技能及びスポーツライフをより豊かにするための知識や技能を活用して、計画を立て、実践し、評価するといった課題解決の過程などを活用して、自らの学習活動を振り返りつつ、仲間とともに課題を解決し、次の学びにつなげられるようにするといった学習の過程を示している。

障害者の生涯学習の推進について

障害のある方々が、学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、教育施策とスポーツ施策、福祉施策、労働施策等を連動させながら支援していくことが重要です。

文部科学省では、「障害者学習支援推進室」が中心となって、学校卒業後における学びの支援、福祉、保健、医療、労働等の関係部局と連携した進学・就職を含む切れ目ない支援体制の整備、障害のある子供の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する特別支援教育、障害者スポーツや障害者の文化芸術活動の振興等に取り組んでいます。

社会に開かれた教育課程

体験的な活動

高等部での社会とつながりがある学習活動

ユニバーサルカフェ MINNA

日本ハムファイターズ

車いすダンスハーモニー

車いすバスケット

精進川美化緑化の会

生活体験実習（R3年度1月現在 32か所）

みなみの杜 高等支援学校

高等部祭（福祉事業所販売）

ようこそ先輩（総合的な探究）

KJ法で意見交流 →「高等部段階で大切にすべき内容」のPOINT

卒業までの時間は限られる。



「教科の内容、系統性」は、小中段階で十分に行われており、生徒達もそれにそった学習を経験している。

高等部段階では、単に「学力をつけること」というより、卒業後を見据えて大切なと思われる事柄に重点をおくべき

進路や卒業後の生活

自己選択や自己決定

余暇や生きがい

基礎・基盤を養う小中学部と異なり、社会に巣立つ直前の3年間で、何をどこまで？という視点

議論の中で・・・



現行の週時程について、改善や検討が必要ではないか？という意見が複数

【主な論点】

- ・ 2週間で1サイクルの組み方の難しさ
(発展させにくい。生徒も見通しが持ちにくい。)
- ・ 限られたコマ数の中での指導の軽重の在り方
など

グループ研で協議しつつ学部会に諮ることで、改善充実を進めた

成果

- ①高等部段階の教育課程を組む上で、大切にしていきたい観点について、メンバー間の協議や学習指導要領の確認などを通して深めることができた。
- ②高等部の週時程に関する改善点を、グループとして検討し、学部の問題提起することができた。

今後

より具体的な、本校高等部で指導していく内容の検討